

地域に根ざす医療機関を目指して

新病院長就任挨拶

認知症疾患医療センターからのお知らせ



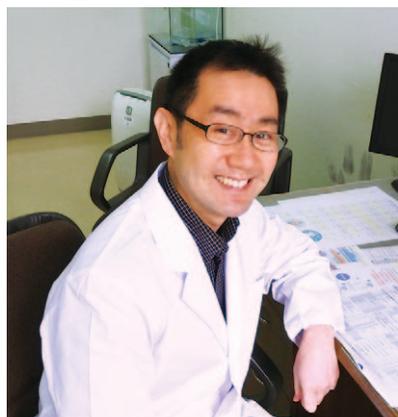
平成28年1月から看護師の白衣を新調しました



新病院長就任挨拶

公益財団法人 正光会 宇和島病院

院長 山内 宏治



昨年12月末より新しく病院長に就任させていただきました、山内宏治と申します。当院には平成12年12月から勤務しております。途中2年間宇和島を離れていた時期もありましたが、それを除いても宇和島での生活がこの春から15年目になり、これまでの人生で最も長く暮らした場所になりました。これからも、この宇和島地域の精神科医療に微力ながら貢献できたらと思っています。

当院は昭和29年の創立以来、「患者さんのために」という理念のもと、地域に密着した医療機関として、予防・治療・アフターケアが一体となった医療や障害を持ちながら生きていける地域づくりを目指してまいりました。私も初代理事長より連綿と続いてきたこの理念をしっかりと受け継いでいきます。

病院の事業については従来より「入院医療中心から地域生活中心へ」の方針で展開しており、急性期治療病棟での集中的な治療により入院期間の長期化を避けるとともに、社会的入院の患者さんの地域移行・地域定住のため、グループホームなど地域の受け皿を作ったり、精神科デイ・ケアや精神科訪問看護などに注力し、地域で支える医療・福祉を展開してまいりました。特に近年は精神科デイ・ケアに新しいプログラムを取り入れ、リハビリテーションに力を入れてきましたが、今年度もこれらの取り組みを継続・強化していきたいと考えています。

また、高齢化に伴う認知症患者さんの増加に対応するため平成25年4月より、愛媛県から委託を受けて認知症疾患医療センターを運営しており、かかりつけ医や保健・福祉の関係者、地域住民などと連携を図りながら認知症患者さんの医療、ケアにあたっています。

精神科の治療においては、薬物療法ばかりでなく、スタッフの関わりも非常に大切です。昨年度末、当院では初めての精神科認定看護師が誕生しましたが、今年度はさらに職員の教育研修に力を入れ、病院全体の治療力のレベルアップをはかっていきたいと思っています。

これからも、地域のニーズに応え、医療が必要な方々に安全で安心できる医療を提供できるよう、職員一同努めてまいります。今後も変わらぬご指導ならびにご支援をいただけますようお願い申し上げます。



おくすりのはなし

薬剤師 鎌田真由美

精神科疾患の治療で、お薬はとても重要な役割を果たしています。

「もう病気の症状は良くなったから、薬を飲まなくていい。」と思ったことはありませんか？

これまでに、自分の判断でお薬を飲むことをやめてしまった経験はありませんか？

そして、しばらくして調子を崩してしまった経験はありませんか？

「症状がなくなったら薬を飲まなくていい。」、そのようなお薬もあります。

例えば、風邪薬などです。一方、精神科疾患の治療で使われるお薬は、症状が無くなっても飲み続ける必要があります。

症状を取り除くだけでなく、飲み続けることで病気の再発予防をするからです。

「薬が飲みにくい。」と感じている方もいるかもしれません。

お薬を長く飲み続けていくには量や回数など、ご自身が少しでも「飲みやすい。」と感じていただくことが大切だと思います。

もし現在のお薬が飲みにくいと感じている方は、主治医や薬剤師にご相談してみませんか？



部署だより (地域リハビリ：作業療法室)

患者さんが 「自分らしく」生活していくために

精神科作業療法とは、病気等により日々の生活に支障を感じている、また楽しみを失ってしまいがちな方が、日常の中にある活動(手工芸・芸術・遊び・スポーツなど)を通して、心身ともに健康で自分らしく生活を送っていただけるよう支援を行う治療のひとつです。

当院には作業療法士8名が勤務しています。近年では入院患者の高齢化や疾患の多様化と複雑化、入院患者の長期化が課題となっています。そこで、作業療法を集団行動中心のスタイルから個別活動を取り入れたプログラムへの改良を行い、より具体的な支援が行えるように努めています。社会復帰を目指したプログラムの創意工夫と充実を図りつつ、退院後のデイケアや精神科訪問看護に関われるような人材となるように日々精進しています。



認知症疾患医療センターからのお知らせ

認知症疾患医療センター連携協議会・研修会を開催して (各宇和島医師会館にて開催)

平成27年9月30日に事例検討会を開催しました。「かかりつけ医との連携強化」と、センターで使用した事例をもとに流れを説明しました。

「認知症療養計画書」に記入する検査内容を臨床心理士より、診療報酬について図も用いて説明をしました。

医療連携や介護の手助けとしてこの認知症療養計画書が役立つようにしていきたいと思います。

10月9日に「ライフサポート研修」を開催しました。ライフサポートモデルとは「医療・介護を含む総合的な生活支援」を目指すために考案されたものです。(公財)正光会御荘病院 院長 長野敏宏先生により愛南町御荘での取り組みを切り口に認知症の人を介護する対象ととらえるのではなく人としてのかかわり、他職種がチームとして支えていく大切さを話していただき大変勉強になりました。

12月16日には訪問看護から見た連携についての事例を2題検討しました。訪問看護スタッフが認知症である本人の思いをどのようにアセスメントしていくか、地域の方の協力や他資源との連携の仕方など幅広く意見交換が出来たと思います。

今回は、薬剤師さんの出席もあり違う切り口からの意見もいただくことが出来ました。



平成28年2月24日に「第2回認知症疾患保健医療福祉連携協議会」が開催されました。1年間の実績報告・活動報告を行いました。かかりつけ医の先生方がオレンジドクターになり今度は認知症サポーター医になろうという意志を表明していただきとても心強く思いました。

また、4月から新しい年度が始まります。これまで以上にかかりつけ医の先生方や行政と連携を取りながら宇和島市が目指す「認知症になっても安心して暮らせるまち」を目指していきたいと思います。



EVENTS & NEWS

10/3 (土) 南予地区ソフトボール大会

(一財)愛媛社会保険協会主催の第51回南予地区ソフトボール大会が八幡浜市民スポーツパークで開催されました。当院スタッフも正光会チームとして参加しました。8チームの参加があり、見事優勝という結果を残すことができました。



10/12 (月) 日本アルコール関連問題学会

第37回日本アルコール関連問題学会が神戸で開催され、当院外来の石山一明さん(准看護師)がアルコール問題での症例発表を行いました。



10/17 (土) ブリーフ・インターベション& HAPPYプログラム研修会

肥前精神医療センターで作成されたプログラムに基づき、ブリーフ・インターベションの基礎を学び、その補助ツールであるHAPPYプログラムと集団節酒指導プログラムを職域、地域、医療現場で多量飲酒者に対する減酒指導に使用できるようにすることを目的とする研修会が西予市で開催され、当院スタッフが運営協力や参加を行いました。

10/21 (水) 宇和島病院文化祭

元気の泉保育園の皆さんの元気いっぱいのお遊戯で文化祭が開幕。「ボランティアグループ絆」の皆さんによるカラオケショー、患者さんが参加してのコーラスやミュージックフェア(カラオケ大会)などで会場を盛り上げていただきました。



11/6 (金) 正光会医療研究会

第41回正光会医療研究会が津島町やすらぎの里大ホールで開催されました。各病院から1題ずつ研究発表を行い、また、外部講師をお招きして「地域包括ケアにおける認知症施策の方向性」と題した特別講演が行われました。



12/3~5 (木) (土) 日本精神障害者リハビリテーション学会

第23回日本精神障害者リハビリテーション学会が高知県高知市で開催され、当院デイケア部門の橋本昌明さん(看護師)がデイケアで取り組んでいるIMRについて発表を行いました。



5~9月 イベント案内

精神保健福祉活動の輪を広げることを目的として、さまざまなイベントを開催し、地域のイベントへも参加しています。

- 6月 青葉祭
- 7月 和霊大祭走り込み
- 8月 ふれあいの夕べ



青葉祭



ふれあいの夕べ

「青葉祭」「ふれあいの夕べ」については、地域の皆さん・患者さんなど、どなたでもご参加いただけます。ぜひお越しください。詳しくは、当院ホームページをご覧ください。



これらの作品はデイケアメンバーによる作品です。



Shokokai

公益財団法人 正光会 宇和島病院

〒798-0027
愛媛県宇和島市柿原1280番地
☎0895-22-5622
FAX.0895-24-1182



交通案内(目安時間)

お車でのご来院

JR宇和島駅より、国道320号線経由 約9分

バスでのご来院

JR宇和島駅より、
柿原行 変電所前バス停下車約1分



<http://www.shokokai-grp.or.jp/category/uwajima>

正光会ロゴマークの紹介

正光会の理念をあらわす言葉「空と雲」。空は社会や公共を意味します。
2つの雲は患者さんと職員。2つの雲をつなぐのがS字形の正光会です。



Shokokai